

## 学校の在り方地区検討委員会（上北地区）

### 【第3回】概要

日時：令和8年4月17日（火）

9：30～12：00

場所：ホテルグランヒルつたや

1階オーナーズルーム

#### <出席者>

櫻田委員、小檜山委員、丸井委員、奈良岡委員、佐藤委員、田嶋委員  
瀧口委員、森田委員、長尾委員、成田委員、松林委員、泉委員  
小野委員、米沢委員、小原委員、盛田委員、齊下委員、志村委員  
小森委員（進行役）

#### 代理

浦田氏（丸井委員代理）

#### 1 開会

#### 2 事務局説明

事務局が資料1について説明した。

- 資料1の13ページについて、2040年の目指す姿の実現に向けた取組方針（キーワード）に保健・医療・福祉等の連携体制の充実とあるが、関連する学科の新設を検討する方向性なのか。それとも七戸高校総合学科の福祉健康系列の機能強化を図る方向性なのか。

→（事務局）学科の新設は現時点で想定していない。

#### 3 意見交換

##### （1）単位制や少人数学級編制、学科、学校配置の方向性

- 新普通科を設置する場合には、高校教育改革が推進されることで教員が多忙になることから、計画的な教員配置が必要である。
- 新普通科を新たに設置する場合には、卒業後の進路を明確化する必要がある。
- 新普通科については、地域住民や中学生にとって魅力的に映らなければ関心を持ってもらえない可能性がある。
- 新普通科を設置するのではなく、専門性のある外部講師等を活用しながら、普通科や総合学科に多様な科目を開設する方が現実的である。

- 単位制の導入や少人数学級編制の実施については賛成である。ただし、全ての職業学科で少人数学級編制を実施してほしい。
- 新普通科を新たに設置することには賛同できるが、中学生から選ばれるためには、わかりやすい学科名とするとともに、教育内容や卒業後の進路先を明確にした上で、中学生やその保護者に周知すべき。
- 専門学科では少人数学級編制を実施する必要がある。
- 新普通科は中学生やその保護者にわかりにくいいため、これらは総合学科で対応した方がよい。

## (2) 全日制課程の学校規模・配置

- 七戸高校の総合学科の学級数は維持してほしい。
- 学級減のみで対応した場合、各校の小規模化が加速するのであれば、前期・後期の5年間で分けるのではなく、今のうちから統廃合についても考えていく必要がある。
- 全ての学科について、充実した教育環境を整備するため、定員充足率に基づき学級減を判断すべき。
- 百石高校の普通科は大きく定員割れしているが、入学者数は1学級を超えているため、学級数を維持してほしい。ただし、定員充足率が0.5を切る場合は、学級減も仕方ないかもしれない。
- 中学生が高校を選択するにあたり、卒業後の進路先や通学の利便性等、様々な要素があることから、総合的に勘案して学級減等を実施する必要がある。
- 未来デザイン科がどのような学習をするのかイメージしにくいことから、中学校への説明は丁寧に実施すべき。
- 人口規模を考慮すると、十和田市に普通科が8学級もあるのは多いことから、十和田市内の高校から学級減を実施すべき。
- 新普通科は、カリキュラムが普通科とそれほど変わらないことから、名称を変更する必要はない。
- 教育内容が画一的・均質的な状態が続くのであれば、普通科から学級減する

必要がある。

- 学級減については、これまでの意見の中から選ばざるを得ないのではないか。
- 未来デザイン科は六ヶ所高校への設置も考えられる。ただし、同学科の内容・特色が分かりづらいため、中学生やその保護者にもわかりやすくするとともに、設置にあたっては高校側ときちんと検討してほしい。
- 新普通科設置に伴い、教員の負担が増えないよう、適切な教員配置をすること。

### (3) 定時制課程・通信制課程の学校配置

- 自宅により近い協力校でのスクーリングを受けられる体制を整備することについては賛同する。

## 4 閉会